

工事の  
げんば  
現場より

亭榭保存修理事業

今はこんな様子だよ。

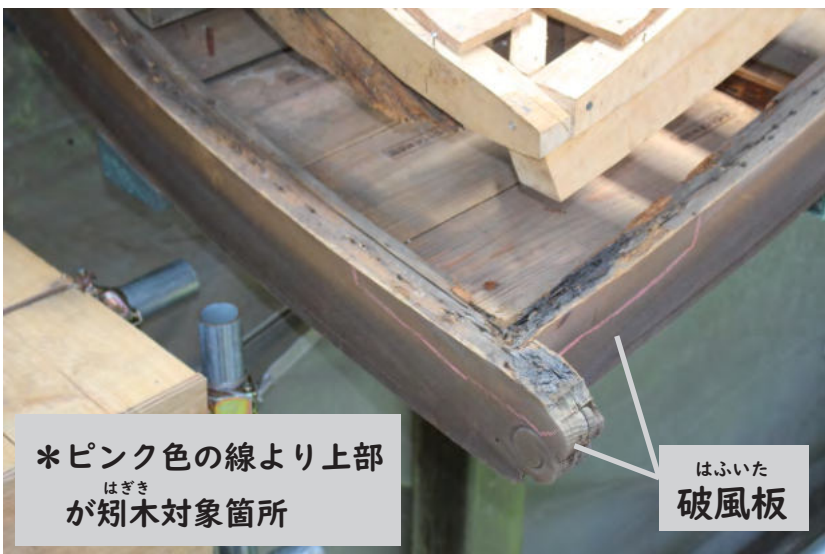


6月5週目

屋根の頂部の瓦を解体したのち、上から順に屋根本体の檜皮部分、雨漏り等によって傷んだ屋根下地（屋根の土台）、そして虫害により腐朽してしまった木部の解体を行いました。檜皮部分は前回2004（平成16）年施工の仕様を確認しつつ、葺き方の不備も判明したことからその反省を活かして修正を行う予定です。虫害による腐朽は小屋裏にミツバチが営巣してハチミツや死骸が蓄積してしまっただけが原因で、内部に立派な蜂の巣が出来上がっていました。ハチミツを求めてアリなどの害虫も集まってしまっていたため撤去し、今後は虫が入らないようにしっかりと塞ぐ予定です。



◀断面が確認できるように解体して調査を行い（左）、その後檜皮を全部撤去しました（右）。



\*ピンク色の線より上部が矧木対象箇所

破風板

◀屋根の一番端（隅）の部分は勾配が緩く、建物本体（破風板上部）が雨漏りの影響が腐朽してしまっていました。この状態では新しい屋根を葺くのに不適切なので、矧木修理※を行います。

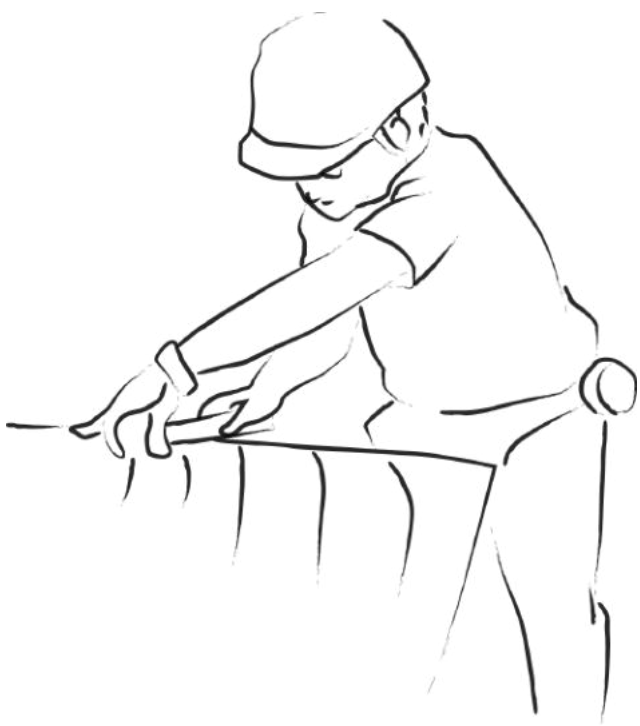


すごい蜂の巣！！



※矧木：木目に沿って幅方向に矧いで、つなぎ合わせる方法。この場合傷みの激しい箇所を切り取り去り、新しい材を同型に加工してつなぎ合わせ補う。

職人file 03【 屋根葺士 】



檜皮葺屋根の解体を担ったのは葺士、檜皮葺屋根や柿葺屋根を葺く技能を持つ職人たちです。檜皮葺屋根や柿葺屋根はおよそ20～30年毎に葺替を行う必要があるため、屋根材を解体する作業も担います。その際に丁寧に過去の仕様を調査し、そこから学び反省点は活かすことで、新しい屋根をより良い状態で維持できるよう改善策を講ずるのです。今回の屋根は「四方唐破風」という非常に難易度の高い代物。過去に学び、未来を切り拓いていく、伝統の技を受け継ぐ職人たちの今後の活躍にぜひご注目下さい！